



社会福祉法人
ひょうご聴覚障害者
福祉事業協会

一人ひとりを大切に(人権)
ともに生きる(共生)

<発行>

特別養護老人ホーム
淡路ふくろうの郷
広報委員会

〒656-0002
洲本市中川原町中川原 28 番地 1
TEL: 0799-25-8550
FAX: 0799-25-8551



右の QR コードから
ホームページをご覧くだ
さい。

11 月 15 日から東京 2025 デフリンピックが始まりました。今大会は日本初開催かつ 100 周年記念大会。日本選手団は陸上・柔道・水泳・卓球などで次々とメダルを獲得し、活躍しています。デフリンピックは世界中の「きこえない・きこえにくい」アスリートが集まり、スポーツを通じて交流する場です。これを機に、聴覚障害者への理解が広がり、バリアフリー社会の推進につながることが期待しています。

全高聴福協主催

職員交流会

in 高知

11 月 4、5 日の 2 日間、職員交流会研修として高知県へ行かせていただきました。私にとって、他施設で働いている方と交流することができ、コミュニケーションの大切さや、共に学ぶことができ、又、新たに沢山の事を学ばせていただきました。1 日目は、高知県土佐平成福祉会と静幸苑へ施設見学に行ってきました。ここの施設は、土佐くすのき荘視覚障害者養護老人ホーム創立 29 年目となる視覚障害者を対象とした盲養護老人ホーム、静幸苑聴覚障害者養護老人ホーム創立 10 年目となる聴覚障害者を対象とした養護老人ホームです。視覚障害者に配慮した施設では、喫茶室があり、週 2 回程度開き、入所者の希望によりコーヒーやビール、お酒なども提供されているそうです。

他、階段などでは、転落防止の為に、階段の降口には転落防止扉をつけておられ、転落防止による工夫がされておられました。すごく良いと思いました。又、施設全体が回廊式になっておられ、万一お部屋が分からなくなつて迷った場合にも、施設全体が回廊式になっているので、入所者の方は安心して過ごせるように工夫されています。聴覚障害者では、ダイルームが設けられておられ、大きなスペースでテレビが観やすく、病院の待合室みたいな感じで、歓談の場としてテレビを観られたり、ゲームを楽しんだり一人ひとりがそれぞれ楽しんで過ごされていました。入居者の方々にも、みなさんが笑顔で手を振ってくださりあたたかく見守ってくださって嬉しかったです。食堂も、すごく綺麗で家に居るみたいな感じで、一人ひとりのふりかけも置いてあって、机にも名前が貼ってあり、分りやすく皆様が分かるように工夫されていました。施設も綺麗で、防犯にも力を入れておられ、ヘルメットも一人一人あつて感心しました。屋上にも行かせていただき、綺麗な仁淀川が見ることができ、春には桜を眺めながら弁当を持って屋上からピクニックするそうです。空気が綺麗でよかったです。2 日目は、高知県市内のちより街テラスの会議室に行きました。全国、北海道から沖縄までの他施設が集まり、職員交流会をしました。色々な意見や課題を出し合いました。今は、昔と違って、時代が変わってきており、若い方が減ってきており、働く上で大きな問題となっています。手話ができる方が減ってきて、私も含め手話を勉強しつづけていく必要があると思いました。施設の課題はたくさんある事も知って本当に貴重な時間を過ごせました。私も含め、将来像として沢山の課題があると思いました。何よりも大切なのが、挑戦すること、勉強を継続することが一番大切です。今回の研修を通して、幅広く、ひろい視野で学ぶことができ、又、すごくリフレッシュになつて楽しかったです。機会があれば、また参加したいです。色々な研修等も行きたいと思いました。このような機会をつくっていただきありがとうございます。

(生活援助係 畠 ひづる)



安手小学校

福祉学習車いす体験

11 月 13 日安手小学校体育館で福祉学習車いす体験があり、ふくろうの郷職員 3 名、社会福祉協議会職員 2 名が講師として参加しました。5 年生 10 名（1 名欠席）と、公開授業でしたので父兄の皆様も見学・参加されました。

体育館には三角コーンのスラローム、運動マットでの悪路、障害物の狭い通路、段差のゾーンが設定されました。初めにふくろうの郷熊谷が、車椅子の各部名称と取り扱い方、注意点について説明しました。特に講義の中では、車椅子乗り降り時には必ず足台を上げることやブレーキの確認をすること、介助する人はゆっくりと車椅子を押すことを指導しました。子どもたちは真剣に話を聞き、メモをしっかりと取っていたことには感心しました。また、車椅子のたたみ方には興味津々といった表情でした。



その後車いすに乗る人と介助する人 2 人 1 組で体験をしました。三角コーンは 1 人で自操しましたが、右や左へと思うように進めず苦労しました。運動マットでは介助で押しましたが、車いすと思いのほかマットに埋まり前に進まず、足を踏ん張りながら押しました。狭い通路では車いすにも慣れ、スイスイと前に進むことが出来るようになりました。そして最後は 10 センチ以上優にある玄関の段差に挑戦です！ 降りる時は後ろ向きになって慎重に、上がる時は目一杯全身の力で車いすを押し上げました。無事上がることが出来た時のやり切った表情がいきいきとし、みんなニコニコしていたのが印象的でした。



にも車いすに乗って頂き、子どもたちに介助してもらいました。初めて車いすに乗られた方もおり、車いす操作の難しさと、乗って押された時のスピードが速いと怖さを感じると話されていました。和気あいあいとした雰囲気の中で体験は行われ、笑い声で溢れていました。

最後に子どもたちからは、車いすがコンパクトになることに驚いたこと、運動マットが思った以上に押すのが大変だったこと、自走するのは楽しかったこと、困った人がいたらお手伝いしたいなどの言葉が聞かれました。車いすを利用する方の気持ちや介助する方の気持ちに少し感じられ、いろんな学びがあつたようでした。子どもたちの学ぼうとする姿やキラキラした表情に私たちも刺激を受け、活力を頂いた時間でした。

（作業療法士 熊谷淑子）

インスタ始めました！



ひょうご聴覚障害者福祉事業協会
Instagram

フォローお願いします



ふくろう物語

松下 公子様



兵庫県 神戸市で生まれまして。兄妹はなく、両親と3人で暮らしました。子供の頃は勉強が苦手だけれども運動は得意であつたため近所の友達と外で走りまわっていました。神戸垂水のろう学校に通い、卒業後は洋裁の仕事をしていました。その時にご主人と出会い結婚しました。ご主人はまじめでやさしくおとなしい人であり、写真撮影が趣味であつたためいろんな場所に一緒に旅行に行きました。

結婚後もご主人と洋裁の仕事をしておられました。ご主人の甥御さんは、「昔たくさん洋服を仕立ててもらいました。周りには仕立てた服を着る人は少なかったもので、友人にうらやましがれていました」と話されます。ご夫婦には子供はなく2人で仲良く暮らしていました。

神戸から高砂へ転居し、ろうあ協会や手話サークルの活動にも積極的に参加されていたそうです。淡路で開催された行事の写真にも松下さんが写っています。地元だけでなく幅広く活動されていた様子がうかがえます。

ご主人がお元気だった頃、ふくろうの郷を見学して夫婦そろって入居する話もありましたが、ご主人が急に亡くなり、その後一人暮らしをされていました。

令和6年5月に自宅で倒れていたところをヘルパーに見えられ救急搬送。その後回復し老人保健施設に変わりましたが、そこでは意思疎通が難しくベッドで伏せる毎日でした。その年の12月

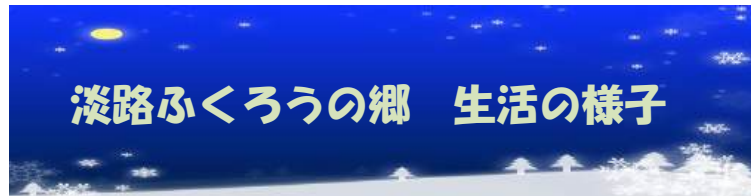


12月ふくろうの暮らし

- 12/1(月)ふくろう理髪店
- 12/2(火)演劇講座
- 12/4(木)誕生日会
- 12/7(日)手話の集い
- 12/9(火)ふくろう工房(作業)
- 12/10(水)手話講座
- 12/13(土)回想法
- 12/16(火)絵手紙講座
- 12/17(水)ふくろうクリスマス会
- 12/20(土)書道講座
- 12/24(水)餅つき、しめ縄、2026年を占う漢字

からショートステイを利用し令和7年5月に長期入居されました。ふくろうの郷に來られてからは施設の行事に積極的に参加され楽しまれます。普段はリビングで他の入居者さんと良くお話をしたりゲームを楽しまれたりして、いつも穏やかにニコニコして過ごされています。今後も、高砂の仲間だけでなく淡路のろうあ協会の皆さんとの交流も大事にし、笑顔を絶やすことのないようにお手伝いしたいと思います。

(生活援助員 國久 洋志)



★絵手紙 どんぐり、いちょう、鬼の絵を描きました。



★作業 まつぼっくりに色を塗りました。何ができるのかな？



★ノロウイルス感染対策研修

嘔吐処理の方法について、定期的に実践を行い、いざという時に備えています。



★町探検

中川原小学校の子ども達が、町探検で遊びに来てくれました。かわいい姿に温かい気持ちになりました。





▲熱心に話に耳を傾ける受講者

ろう学校時代の厳しい口話教育に加え、家庭でも母親から学校同様の発語訓練を繰り返させられる日々を送り、

「聴覚障害とは」～手話は命～

手話奉仕員養成講座集中講座

講師:仲井 正氏(兵聴協理事)

11 月 1 日(土) 午前 9 時～12 時
洲本市総合福祉会館で集中講座を開催し、受講生 16 名が参加しました

淡路聴覚障害者

センター便り

洲本市港 2-26
洲本市健康福祉館 3 階

きこえる人は大嫌い、絶対に仲良くなりたくない。大きくなったら聞こえなくなる薬を發明し、みんなが薬を飲んで聞こえなくなれば良いと思っていた。しかし淡路島でのろう青年の集いでの出来事でこの考えが一変します。大会のレクでサイクリングを企画したが、会場担当者から、聞こえない人のサイクリングは危ないから内容の変更を求められた。諦めざるをえないだろうと思っていたら、聞こえる手話が出来る人(手話通訳者)が間にあって、両者の言い分を伝えてくれ、最後にはお互いが手を取り合って仲良く納得し無事サイクリングができた。この様子を真のあたりにし、聞こえる人に対しての考えが変わったのと同時に手話通訳者の存在を知り一緒に活動していこうと思われたそうです。その後、聞こえない人に配慮のある特別養護老人ホーム建設の候補地が淡路島で見つかりろう者だけでした。

【受講者の感想】
講師の「もっと遅くに生まれていれば良かった」という言葉は本当にそうなんだろうなと思いました。当時、不幸中の幸いだったことは、ろう学校にいた子どもが一定数いて、寄宿舎で手話をやり取りできたことなのかなと思いました。

10/26

ふくろうふれ愛祭りに参加

第 7 回社会生活教室



淡路聴覚障害者協会の斉藤よし子さん。「協会のバザーも担当しながら、入居者の岸野さんと出会い、同郷でもあり、久しぶりに懐かし話ができ、うれしかったです」

手話奉仕員養成講座受講者

●手話が日常で使われていることが正直新鮮にうつりました。太鼓や踊りなどのイベントもありましたが、聞こえる人、聞こえない人も様々な方法と一緒に楽しむことができる肌で感じる事ができる良い機会でした。

●多くの方が来られていました。目の不自由な方、手話サークル等活動に参加されている方も来られていたのが印象的でした。多くの理解支援と共にふくろうの郷があるのだと実感しました。

家庭訪問 淡路市津名地区 10.27

Aさんご夫婦の自宅を訪問。ご主人は部屋でお休みになっておられました。奥様とお話をしている途中、ご主人も起きてこられ、一緒にお話しました。ご主人は酸素吸入器を使っておられますが、先日、ご夫婦で会社主催の勉強会に参加されたとのこと。日常生活の送り方について「酸素吸入をしているからと家に引きこもらず、外出を楽しむことやむくみの取り方」を学んできたとのこと。運転が趣味のご主人、今も神戸や伊丹に車で出かけている、と嬉しそうに話をしてくださいました。(吉川・酒井)





中川原 地域ふれあい便り

発行団体 : 中川原高齢者・障がい者地域ふれあいセンター運営委員会
住所 : 〒656-0002 洲本市中川原町中川原 222-2

TEL:0799-28-0990 又は 28-0991 FAX:0799-28-0992

🐻 ようこそ！！ 中川原保育所のおともだち！ 🐰

11月12日（水）中川原保育所の年長児の皆さんと交流会を開きました。一緒にお歌を歌ったり、手あそびをしたり、ダンスも見せていただきました。エネルギーいっぱいのおともだちに肩たたきしてもらいました。利用者のみなさん喜んでおられました。また、遊びに来てくださいね。



運動会でも披露された ダンス



いっしょに 手あそび



かわいらしいお花のプレゼントをいただきました。ありがとうございました



中川原保育所のおともだち VS デイサービス
桜ヶ丘の利用者で風船とばしゲームをしました。
勝利は！？

デイサービス桜ヶ丘へ来られますか？

	月	火	水	木	金
ご利用いただける曜日	×	○	○	○	○
入浴いただける曜日	×	○	○	○	○

お問合せは 0799-28-0993 吉川まで

「道の駅うずしお」外出研修



11月7日(金)におのころ屋の利用者さんと外出レクに行ってきました。新しくリニューアルされた「道の駅うずしお」と「うずの丘」を見学。売り場にはたくさんの商品が並んでおり、レイアウト、ラッピングやポップ等をメインに見学しました。見学した利用者さんは、日頃は作る事に集中しているが、自分たちの商品以外の物を見てラッピングや価格など参考になるものになったと話されました。(おのころ屋職員 楠本)

「モード56商店街で「すつともフェスティバル」

11月15日(土)、洲本市本町にあるモード56商店街にて、すつともフェスティバルが行われました。

昨年に続けて2回目の開催となり、利用者さんと一緒に焼菓子の販売を行いました。商店街での販売の為、天候の心配はありませんでしたが、風が吹き少し寒い中での販売でした。そのような状況でしたが、商店街を通るお客様が足を止めていただき、利用者さんも一生懸命、販売を行っていました。



購入していただいたお客様に対して「ありがとうございます。」「すつともフェスティバル」を行います。」と手話にて挨拶を行い、なかには手話で返してくださいの方もいらっしゃいました。地域の方々とおふれあいすることができ、良い機会となりました。

(おのころ屋職員 山田)

ふれあいセンター
火災避難訓練実施

11月26日(水)午後1時45分から、中川原地域ふれあいセンターにて、利用者と職員が参加する火災避難訓練が行われました。

同センターではこれまでも繰り返し訓練を実施しており、参加者には一定の慣れが見られました。慣れは心に余裕をもたらす一方で、想定外の事態に直面した際には判断力の低下につながる恐れもあります。

「防災について」ふれあい職員研修



11月27日(木)午後5時、洲本市消防防災課の赤松氏による防災講話が行われた。自主防災組織は住民が「地域は自分たちで守る」との意識で自主的に結成され、平時・災害時の備えは町内会などが担うことが強調された。日頃の活動や住民同士のつながりが災害時に大きな力となると述べ、職員も災害認識を持ち主体的に取り組む必要。地域の安全を守るためには日常的な準備と協力が不可欠であることを確認する機会となった。(橋詰)



また、避難行動は一見簡単に思われがちですが、情報の誤り一つで危険に直結する可能性があります。そのため、正確な情報を迅速に把握し、共有したうえで安全を確認し、適切な指示を出すことが重要です。

今回の訓練を通じて、繰り返し取り組むことの意義を改めて確認しました。センターでは今後も継続的に訓練を行い、利用者と職員の安全確保に努めていきます。

(おのころの家職員 矢田)

神戸長田ふくろうの杜

兵庫県神戸市長田区神楽町5丁目3の14の1
 〒653-0836 電話 078 798 7940
 FAX 078 798 7941

秋の味覚・芋ほりに

行ってきたよ!

十一月のはじめの土曜日、ふくろうつこたちと神戸市西区にある老ノ口農園へ芋ほりに行きました♪ 初めて行く農園です。車に揺られながら、都会から田園風景に変わっていく様子を楽しんでいました。

車内でも、しりとりをしたり、歌をうたったり、おしゃべりをしたりとにぎやかでした。

すると、農園に到着!「今日はたくさん採るぞ〜!」と子どもた

真剣な目つきで掘っています!



今年の芋は大ぶりだ〜!

ち。「いやいや2本までやで!」と職員。そんなやりとりをしながら、芋を掘り続けました。すると歓声が聞こえてきました。「わあ〜見えてきた!」と大喜び。土の中からお芋が見つかった瞬間の驚きと喜びは格別だったようです。まるで宝物を見つけたような気持ちになったとのこと。そして、次々週の土曜日には獲れた芋で子どもたちとスイートポテトを作りました!

(放デイ・管理者 山本芙由美)



甘いです♡

気分は大学生!?
六甲アイランド外出しク

11月21日(金)にB型と生活介護のなかまで六甲アイランドへ外出に行きました。なかま相談で六甲アイランドに行きたいと決まりましたが、ご飯を食べるところがあるかなと考えていたところに神戸国際大学の学食が一般の方も歓迎との情報を見つけました。

最近の学食はメニューもおしゃやれでチリコンカンやタンタンうどんなど種類も豊富でお値段もお手頃でした。いざ、JRから六甲ライナーに乗り換えて大学の食堂に到着し、メニューを選んでもらいましたが、どんな料理か知らない方もいて選ぶだけで時間がかかりました。カウンターで料理を受けた。カウンターで料理を受け取って食べ始めると「辛い」「おいしい」といろんな感想が聞けました。料理の味だけではなく「大学には初めて来た」「若い人がいっぱいいた」と学生と同じ空間で食事をしたことも新鮮な体験だったようです。

食事の後は、神戸ゆかりの美術館に移動して見学をしました。絵本の世界に飛び込んだみ



たいにきれいな絵画やオブジェなどを楽しみました。

たくさん歩いたので帰りは皆さん疲れてくたくたになってしまいました。施設に帰ってきたときには「たくさん歩いた」「六甲ライナー久しぶり」など思い話をしました。

毎日、お仕事を頑張ることも大切なことですが、行事を通して生活の体験をすることも福祉施設の大切な役割です。また、お仕事を頑張るためにも楽しい時間も作っていきたいと思います。年末年始はクリスマス会や新年会など楽しい行事も目白押しです。